

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成20年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
20-1	サービスイノベーション型空間情報社会基盤に関する研究開発	東京大学 特任准教授 関本 義秀	B

< 研究の概要 > 成果報告レポートより引用

地方自治体を含めたデジタル道路地図の迅速かつ持続安定的な更新を実現するため、道路更新情報の自動収集・提供システムを開発し、様々なユーザーに利用してもらった。

< 事後評価結果 >

実用化に向けた道筋等、取り組むべき課題は残るものの、道路行政に的を絞って論点を整理するとともに、情報の収集方法とその一元管理について具体的なアウトプットを確保し、情報収集の効率化が期待できることから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。

< 参考意見 >

1. 情報の一元管理は重要であるが、すべての情報を同一のシステムで管理する場合には、重要情報とそうでない情報の整理が肝要であるので、利用者から見ての重要情報(利用者の行動を左右する情報)を、利用者が簡易かつ低コストで入手できるシステムの提供を目指していただきたい。
2. 将来を見通したパイロットシステムを構築し、性能評価ができればさらなる改善が期待されることから、実務での試行をお願いしたい。
3. 情報自動収集には精度等に限界はあるものの、当面こうした形で情報の蓄積を図りつつ、最終的には行政によるコストと手間をかけない仕組みの構築を図ることが持続的な基盤情報の収集につながると思われる。
4. 道路更新情報の流通実験の成果を踏まえ、「継続的な情報流通」に向けた体制作りが望まれる。